



Via Latina 22

2021年6月 301号

総本部よりのお知らせーマリア会

ラテンアメリカでの再編成：新たな地区



2021年5月25日、キリスト者の助け手である聖マリアの記念日に、総長は彼の評議員会の同意を得て、新しい「ラテンアメリカ地区」の設立を決定しました。新しい地区にはアルゼンチン、チリ、コロンビアーエクアドル、そしてペルーの旧地区が含まれます。新地区は2022年の前半に設立されますが、日程は未だ決まっています。その時点でこれら4つの地区は廃止され、それぞれ特別地区として新地区の一部を構成することになります。4つの特別地区からなる1つの地区は、4つの行政単位の責任者と総長評議員会の検討の結果として採択された組織です。

ラテンアメリカの行政単位はCLAMARゾーン内での協働の長い伝統を持っています。2019年7月に、地区長たちは、総長から任命されたゾーン議長の権限の下に置かれ、CLAMARが全ての行政単位に共通するプロジェクトの採用に関して準拠していた、再編成のプロセスに入るといった選択を行っていました。この再編成の構想は2015年7月の総指導者会議で奨励されていました。ゾーン議長、Luis Casala師の下で、2019年からのこの2年間の経験はこれら4つの行政単位のビジョンの統一を強め、1つの地区への統合を通して、更に強い協働段階への道を準備しました。

この再編成の目的は、中央集権の強化を通して行政構造を軽減することによって、会員たちの修道生活とその宣教活動の益となるためのエネルギーを様々な制限から解放することです。地域の活性化もまた強化された共通のビジョンを頼りにすることができるでしょう。前回の総会の方針に沿って、CLAMARゾーンもまた“マリアニスト家族と共なる宣教活動”であるように特に注意を払っています。ブラジルとキューバの共同体はスペイン管区の責任の下にあります。彼らはこの新しい地区との協働を継続するでしょう。

私たちはこの動きを歓迎します： 適応することは活力と希望のしるしです。この新しい地区に所属する53名の兄弟たちのため、そして彼らが有能な信徒との協働で推進している数々の活動のためにお祈りしましょう。私たちはこの移行業務を4名の責任者とゾーン議長に委ねます。最後に、ラテンアメリカの全てのマリアニスト家族のために祈りましょう、この家族は私たちの事業に引き続き大変献身しています。この新たな段階を南米大陸の保護者、グアダルupesの聖母に委ね、そして、特に良い堅固な修道者召命の豊かな実りを彼女と私たちの創立者にお願いしましょう。

インド従属地区での初誓願

2021年5月1日、Aievan Tete士、Melwin Britto士、Praween Kerketta士、そしてRohit Tigga士の4名がランチーのNirmal Deepにて彼らの共同体メンバーとマリアニストシスターたちの出席の下、初誓願を宣立しました。マリア会修練長、Jinu Muthukattil師が初誓願式の典礼を執り行いました。インド従属地区の教育部長、Sukrit Tirkey士がUSA管区長、Oscar Vasquez師の代理として彼らの誓願を受け入れました。



左より：Praween Kerketta士、Aievan Tete士、Jinu Muthukattil師
Melwin Britto士とRohit Tigga士

パンデミックのために、式典は大変簡素なものでしたが、意義深く喜びに満ちていました。

ローマ、シャミナード国際神学校で朗読・祭壇奉仕者の選任式

2021年5月28日 金曜日、ローマのシャミナード国際神学校の神学生4名の奉仕職選任式が行われました。彼らの中の3名が祭壇奉仕者に選任されました：Anselme Mawe Agbessi(TO)、Peter Kulandai Yesu(IN)、George Stifen Mekhi(IN)。1名が朗読奉仕者に選任されました：José Luis Gonzalez (Mexico-USA)。

この選任式は、この機会に集まった総本部の2つの共同体の前にある柱の聖母聖堂にて行われました。マリア会総長、André Fétis師が選任式を執り行いました。奉仕職への選任は司祭職への準備過

程の1つの段階です。感染症の現状は、世界の必要性に注意深くあらねばならない司祭の活動において、神のみ言葉とミサ聖祭が持っている慰め支える役割を強調するよう私たちを促しています。



左より：Miguel Ángel Cortés師（校長）、George Stifen Majhi士、
José Luis Gonzales士、André-Joseph Fétis師（総長）
Peter Kulandai Yesu士、Frédéric Bini士（副校長）とAnselme Mawe Agbessi士

総長はその説教の中で、典礼における祭壇奉仕者と朗読奉仕者の役割を思い起こさせました。事実、祭壇奉仕者は祭壇の傍で司祭と助祭に仕え、他方、朗読奉仕者は、福音の朗読を除き、聖書からの朗読を行います。

Helmut Brandstetter師が2期目地区長に任命



2021年5月12日に開催された会議にて、総長評議員会はオーストリアードイツ地区の地区長としてHelmut Brandstetter師を満場一致で再任しました。これは2021年8月13日に始まる第2期3年間の任期です。

地区長としてのHelmut師への支持は意見聴取で幅広いものでした。信仰とマリア会への奉仕の精神で、Helmut師はこの任命を受け入れました。総長評議員会は、兄弟的奉仕への要請に対する彼の快諾に感謝します。

ヨーロッパ・マリアニスト協議会(CEM)の議長の任命

2021年5月12日の評議員会の同意を得て、総長はJosé Maria Alvira士をヨーロッパ・マリアニスト協議会（CEM）議長に任命しました。2021年7月1日に始まる1期5年間の任期となります。



José Maria士はスペイン管区のマリアニスト修道士で、現在スペイン、サラゴサで副修練長を勤めています。私たちはマリア会でこの奉仕に就くのを快諾したJosé Maria Alvira士に感謝します。

同時に、私たちはその任期中の献身的で寛大な奉仕に対して、議長の任務を終えるJean-Marie Leclerc士に感謝します。



各地域のマリアニスト研究センター(CEMAS)の新しい調整役

総長評議員会はCEMASの新たな調整役としてJosé Ignacio Iglesia士を任命しました。彼は2021年7月1日から2024年6月30日までこの任務に就きます。José Ignacioはポーランド、ワルシャワのマリアニスト共同体の一員です。彼は最近、USAのデイトン大学でマリア学の博士論文の口述審査を受けたばかりです。



私たちはJosé Ignacioとスペイン管区に対しその寛大さと受け入れを感謝します。

各地域のマリアニスト研究センター（CEMAS）は、ゾーンの他の上長に代わって彼らの活動に目を配る責任があるゾーン議長と共に、それぞれのゾーン協議会の責任下にあります。各センター長は自分自身のセンターに責任があります。しかしながら、誰かがセンター長間の情報の連絡と交換を容易にし、可能な共同計画のための調整役として行動し、そして彼らの活動において皆を励ます必要があります。



2017年12月から、Robert Witwicki師がこの調整役でした。彼の任務は2020年11月に終了しました。現在のパンデミックの状況のために、総長評議員会は今年の6月まで任務を継続するよう彼に要請し、彼は快くその要請を受け入れました。私たちは、マリアニスト研究の促進における彼の数年に渡る仕事とその関心の深さに対して、Robertに感謝します。

Robert、本当に有難う！

Paul Vollmar司教(1934-2021)への賛辞



マリア会員Paul Vollmar司教は2021年5月2日スイス、チューリッヒで死去しました。彼はチューリッヒのマリアニストカレッジの教師であり校長でした。そして彼は1984年から1992年までスイス管区、管区長になりました。

1993年、教皇ヨハネ・パウロ2世はイエズス会Peter Henrici師と一緒に彼をクールーチューリッヒ教区の補佐司教に任命しました。教皇はこの教区で起こっている深刻な緊

張を名誉司教で改善するためにこの任命を行いました。私たちの同僚Paulはこの難しい任務の奉仕に彼の人間関係の熟練の技、その中庸、そして英知を注ぎ込みました。スイスの教会はその状況下で彼が行ったこと、同時に彼の全ての司牧活動について彼に深く感謝しています。

彼の葬儀ミサは21年5月5日にフリブールの聖テレジア小教区にて行われました。葬儀はHenrici司教とスイス司教協議会議長のGmür司教が同席して、クールのBonnemain司教によって執り行われました。加えて、総長、André-Joseph Fétis師とPaulのスイスのマリアニスト同僚たちがミサ聖祭に参列しました。Vollmar司教はフリブールの聖レオナル墓地のマリニストの墓に埋葬されました。



以下はVollmar司教に寄せられた3つの賛辞です。

スイス司教協議会（SBK）議長でバーゼルのGmür司教：

SBKの年輩のメンバーはPaul Vollmar補佐司教の創造的で穏やかで控えめな能力を覚えています。彼は自分の人間関係においてとても兄弟的で親切であり、そして礼儀正しく処すことを知る人物でした。彼は司教の役職を個人的な理由のために用いることはありませんでした。彼は何よりも腰の低い、控えめな人物であり、司牧者でした。彼は文学を愛し、そして大変教養がありました。人々の生活や目的をみるこのような方法は、彼を様々な教えが為すかもしれないことよりも身近にこの人々に近づけました。私たちはスイスの教会における彼の働きに対してPaul Vollmar補佐司教に感謝します。

クール教区の名誉補佐司教、イエズス会員Peter Henrici：“さようなら、私の兄弟”

人間的にそして霊的に申して、私は彼以上の補佐司教、仲間、友人を望むことはできなかったと思います。私たちの任務に直面して、お互いに迅速に、正しく、時には話をしなくても理解し合えました。Paulは人々を理解し、彼らに寄り添うための力強いカリスマを持っていました。彼は生涯の殆どを霊的指導者として過ごしました。司教協議会の内で、Paulは和解のため、何らかの必要な改革のため常に効果的に働きました。彼は自分の司教としてのモットー“何であれ彼が言うことを行いなさい”に忠実でした。今、彼は確実に約束された報いに与ります。

マリア会トーゴ地区長、Jonas Kpatcha師：

トーゴのマリアニストの歴史は、1958年にラマ-カーラでスイス管区長、Robert Mattleと3名の宣教師と共に始まりました。次の世代の若いトーゴ人マリア会員の準備が実現するのは、(25年後の) Paul Vollmar師の指令を待たねばなりません。Paul Schenker神父とラマ-カーラマリアニス

ト共同体と協力して、Vollmar師はトーゴ人修道者のための養成プログラム全体を計画しました。数世代の若いトーゴ人修道者はこれまでこのプログラムに従って養成されてきました。

Vollmar師は、トーゴ人修道者に思い切っても優れた修道的、専門的な養成を受けさせようとした人です。彼は志願者の個人的な発展の先を見ていました。彼はスイス人マリアニスト宣教師によってトーゴにもたらされた教育の精神と質が永続することを計画したのです。

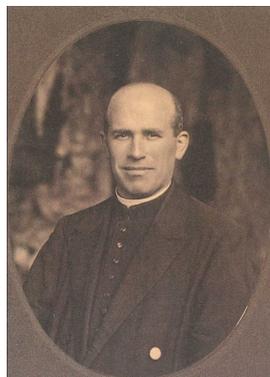
神と聖母マリアへの信頼のお蔭で、彼はこの国の人たちと行う宣教を継続できると信じた。今日、スイス人の宣教師たちが蒔いた種は、トーゴの国境を越えて花を咲かせ、豊かな実りをもたらし続けています。私たちは、神が私たちに送ってくださった偉大な兄弟、そして思いやりある父の故に、主に感謝します。Paul Vollmar司教様、神様のもとで安息ください！



Vollmar司教の葬儀ミサ

福者Miguel Leibar

軍事クーデターの失敗により、スペインは2つの軍事的、政治的ゾーンに分割されました。それに加え、この分割に巻き込まれた宗教的要素もありました。なぜなら、スペイン内戦においては、競合する政党が宗教をイデオロギーの要素に変えたからです。



国民党側では、内戦は宗教戦争、乃至は無神論共産主義者に対する“聖戦”として戦われました。一方共和党側では、反教権的エリート知識人、および無政府主義や共産主義思想に影響された労働者大衆が、ソビエトロシアに倣って、カトリック教会を滅ぼすべき部類の敵と見做していたのです。共和制側の民間当局は、軍と市民警備隊が軍の反逆人に共鳴するのではないかと恐れて、労働者たちに武器を手渡すことを決定しました。その時以来、最左翼の民兵は暴力的手段によって社会的革命を成し遂げようと決断し、罪なき市民の恣意的な逮捕と無差別の処刑を実行しました。

クーデターが宣言された時、スペインのマリアニストはマドリードに2つの学校を有していました。一つはホアン・デ・メナ通りに、もう一つ、ヌエストラ・セニョーラ・デル・ピラールはカステジョ

通りにありました。これらに加えて、管区本部はベラスケス通り21番の借家アパート内に在りました。ホアン・デ・メナの学校は国民射撃学校に変更するため、出来たばかりの「赤の青年警備隊」によって押収されました。デル・ピラールの学校は7月24日金曜日に民兵、警察、そして共和党左翼メンバーによって押収され、軍病院に変えられました。

デル・ピラール校の教師であり学校付の司祭だったLeibar神父は、クーデターが起きた時、修道者の指揮を執る必要がありました。そのとき、彼らは各々があらかじめ決めておいた避難場所で生活するために行くことにしようと決定しました。Miguel神父はベラスケス通りの管区本部所に移動しました。7月28日、無政府主義の民兵たちがアパートに押し入り、全ての家具と書類を通りに投げ捨て、そこでたき火に火をつけました。それから彼らはMiguel神父を2名の使用人と共に外に連れ出し、マドリッドの郊外で銃殺しました。



Leibar師とビトリアの生徒 1925年

Miguel Leibar Garayは1885年、アレチャバレタ盆地（ギプスコア地方）のアオザラツァで生まれました。そこにエスコリアツァの志願院が在りました。根っからのカトリック信者であったその盆地に住む家族のほとんどはマリアニストと非常に親密で、彼らの多くの子供たちがマリアニスト志願院に入りました。13歳で少年Miguelは志願院に入り、その才気煥発な知性、勉強への熱、素朴な人格、家庭の精神、そして強固な修道的確信に於いて彼は誰より抜きん出ていました。

この若いバスク人修道者はそのしっかりとした性格、皆が認める権威、そして明確で効果的な教育方法の故に傑出していました。彼は司祭になるつもりはありませんでしたが、上長の勧めで、彼は司祭職への道を受け入れました。1907年、終生誓願を宣立した彼は、1912年にスイス、フリブールの神学校に入学しました。1915年に司祭に叙階された彼は、スペインに戻り、ヘレス・デ・ラ・フロンテーラとビトリアとカディスのチャプレンに、そしてサンセバスチチャン校の校長に任命されました。そこで、彼は修道者と生徒たちから大変評価された聴罪司祭として有名でした。ところが1930年に彼が心臓病で倒れた時、上長は彼をマドリッドのデル・ピラール学校の教師とチャプレンに任命しました。1936年7月17日、クーデターが起こり失敗に終わって、内戦が始まった時、ここが彼の住まいでした。

Miguel Leibar神父は他のスペイン人殉教者498名（その中に若い3名のマリアニスト：Joaquin Ochoa, Sabino Ayastuy、およびFlorencio Arnaizを含む）と共に、2007年10月28日、バチカンの聖ペトロ広場にて列福されました。

1971年、USAテキサス州、サンアントニオでの総会の50周年記念

今年、私たちはサンアントニオで開催された総会の50周年を祝います。第26回総会は1971年7月6日から8月20日にかけてサンアントニオの聖マリア大学のキャンパスに在るセントルイス管区の学生修道院で開催されました。この総会は第2バチカン公会議で要請された修道会についての多くの刷新手段を実行に移しました。1971年総会の目標の一つは、1966-1967の前回総会において暫定的なものとして作られた会則の最終版を決定することでした。しかしながら、未処理の課題がこの任務遂行の妨げとなりました。それでも、総会は幾つかの分野を改訂し、現代化しました：すなわち、統治の構造、マリアニストの生活、マリアニストの使命、初期養成、マリアニスト祈りなどです。これに加え、1971年総会はPaul Hoffer師（1956-1971）の大変長期にわたる統治の終わりとなりました。総会の代議員はStephen Tutas師を新たな総長として選出しました。

この総会に先立って、全てのマリア会修道者に対する大規模な調査が行われました。この評価に付けられたタイトルは「SM調査」でした。この回答の調査報告書はフランス語、英語、スペイン語で公表されました：この報告書のタイトルは「SM調査の最終報告、1970年12月～1971年1月、マリア会、イタリア、ローマ」となっています。総会の代議員はこの調査によって、公会議が要請した改革をマリア会が実行に移している方法を知ることが出来ました。

代議員によって選ばれた委員会が総会を準備しました。その委員会のメンバーは次の通りです：教育局長、Pietro Monti士；シンシナティ管区管区長、William Ferree師；パシフィック管区、Stephen Tutas師；ニューヨーク管区、Joseph Jansen士、そしてサラゴサ管区管区長、Eduardo Benlloch師です。Ferree師が深刻な心臓病に襲われた後、スイス管区、Johann Roten師が彼の代わりとなりました。調査への回答を得てから、委員会は「1971年マリア会総会のためのキーとなる問題についての作業資料」を起草しました。その重要性から3つの分野を確認しました：マリアニストのアイデンティティ、2) 共同体の生活、祈り、および宣教活動、3) 管理、統治機構。



1971年の総会が選ばれた総長評議員会
左より：Noël Le Mire師（霊生部）、Gerald Schnepf士（財務部）、
Stephen Tutas師（総長）、Juan Ramón Urquía師（使徒部）、
Pietro Monti士（教育部）

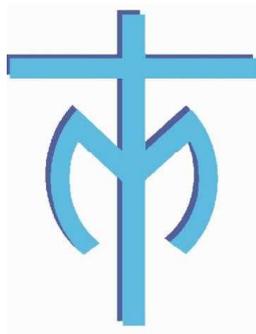
最後に、1970年3月1日、Hoffer師は1971年の総会招集の回章を出しました。79名の代議員が招集されました。彼らの任務は、修道生活の現在の伸展、および多くの修道者が自問自答している問い、すなわち、“どのような生活形態がシャミナード神父の福音的霊示と私たちの時代の必要性に最も相応しいのか？”に関する現今の進展、を取り扱うことでした。代議員は次のような根本的な問いを検討しました。

- ★ マリアニストの霊生、堅忍の誓願、そして、今日の福音的勧告の生き方；
- ★ マリアニストの生活の共同体活と祈りの共同体；
- ★ マリアニスト宣教の意味；
- ★ 今日の世界という背景の下で、私たちの混成構成、修道者の3つの身分、および3部門についての再検討。

8月12日（木）と13日（金）、総長と彼の補佐の選挙が行われました。代議員はStephen Tutas師を総長に選出しました（彼はフルブールの神学校の前校長であり、パシフィック管区の管区長補佐でした）。総長評議員会を構成するメンバーは次の通りでした：霊生局としてNoël le Mire師（フランス）、教育局としてPietro Monti士（イタリア）、使徒局としてJuan Ramón Urquía師（アルゼンチン）、そして財務局としてGerald Schnepf士（セントルイス）。8月19日（木）夕方6時に、新総長と彼の補佐の就任ミサが行われました。8月20日（金）、総会をその任務を終了しました。総会文書は英語で、「宣言、1971年マリア会総会文書」というタイトルが付けられました。

新総長Tutas師は次のように説明しました：「この総会はただ1つの基本的な問いに答えようと努めました：つまり、シャミナード神父の福音的霊示と私たちの時代の必要性に最も相応しい生活形態は何かです」。Tutas師にとって「1971年の総会は正にマリア会の修道生活の新たな時代への始まりです」。事実、サンアントニオの総会は、教会と修道生活に対して第二バチカン公会議によって奨励された多様な刷新分野を取り扱った総会として考えられています。[マリア会の歴史家、アントニオ・ガスコン師が書かれたもっと詳しい研究内容を読むにはこれをクリックしてください。（スペイン語で）](#)

祈りの要請



5月を通して、教皇様は世界中のカトリック信者と全ての善意ある人たちにこのパンデミック期間に試練に遭われている全人類を聖母マリアの御手に委ねるよう勧めました。

5月が終わろうとしています、ウイルスに冒された人々のため、病気で死亡した人たちのため、明日の不安定さに打ちひしがれた家族のため、全ての医療従事者のため、・・・日々の生活の熱意とリズムが戻って来ますよう、福者シャミナードの取り次ぎを通して祈り続けましょう。



Marianiste
FMI

“私はあなた方に私の秘密を明かしましょう”

これは汚れなきマリア修道会の総長、シスターFranca Zontaが、修道会創立205周年の機会に書き送った彼女の回章第21号に付けられたタイトルです。シスターFrancaは、シャミナード師の宣教的選択と修道会創立を導いた霊示について、シミナード師と対話しています。この素晴らしい思索を読み刺激を受けるためには、次をクリックしてください。

[英語](#) [西語](#) [仏語](#) [伊語](#)

最近の総本部通信

- 訃報：10-13号
- 5月26日：情報と注意喚起、マリア会総長André-Joseph Fétis師から行政単位の責任者とゾーン会議議長宛て3か国語で送付。